1996年 5月

WIN CONCORD コンコード NEWSLETTER

「こころ」の支援

和歌山大学教育学部教授

永野基綱

「文化交流」とか「国際理解」とかいったことばは、とりわけ昨今では、一種の流行のようになっている。和歌山の留学生たちも、様々な場面で、また様々な形で、たくさんの方々に交流して頂き、交歓して頂いている。大学に籍を置く者の一人として、大変ありがたいことである。

だが、そう思いながらも、少しばかり気になっていたことがある。それは、留学生たちが、やはり「お客様」として、交流して頂き、交歓して頂いているのではないか、という疑問であった。

お客様との付き合いは、お互いに楽しい。できるなら遠来の客がよい。節度のある賓客と、いろいろ語り合うのは、誰にとっても愉しいひと時である。私の知る留学生たちは、これまで、みんな、大変節度のある学生たちばかりであった。多くの方々から大変親切にしてもらい可愛がってもらうのはよく分かる。・・・いま思えば不明にも、私はそんなふうに思っていたのであった。

ところが、今回、私のよく知る留学生が不祥事を起こした。そして、私は不明を恥じた。

彼の起こした事件については書かない。書きたいのは、その後のことである。

たちまち、驚くべきことが起こった。事件の報が伝えられるや、実に数百人という方々が、進んで彼のために嘆願書を書いてくれた。また、滞在期間の更新が不安だと伝わるや、再び二千人を越す方々が、進んで上申書を書いてくれた。「一度の過ちで彼を国外退去させないでほしい。心から反省している彼に、何とか勉学を続けさせてやってほしい」と。

彼は大学で学び、大学での勉学を願っている留学生である。だが、肝心の大学学部の腰は重かった。

それに比べ、市民の方々の反応の速さ、行動の力強さに、私は目を見張った。

弁護士の献身的な努力はもちろんである。だが、それだけではない。市民の方々の一人一人の責任と行動力が、異国で罪を犯した彼を支え、励まし、そして関係当局を動かしてくれたのである。

外国人はお客である。お客としての節度をもって振る舞う限りは、楽しくもてなし、助けもしよう。だが、外国人が節度を越えて迷惑をかけた場合にはそんな迷惑なよそ者とはつき合い切れない。・・・多くの人々の反応は、そんなところではなかろうか。

そんな私の予想は、はずれた。

留学生たちは、お客として交歓し交流して頂いていたのではない。楽しいからという理由だけでつき合って頂いていたのではない。

私は今後、大学の中で語られるような「国際交流」とか「国際理解」とかを、信用しないことにする。いざというとき本当に頼りになるのは、やはり一人一人のこころであり気持ちである。

コンコード concordという語の cord は、ラテン語の、cor, cordis（こころ）からきている。コンコード（こころをひとつに）、ということばの意味をいま更ながら私はかみしめている。

WINコンコード・1947年・リベラル

朱 光 明
（中 国）

ＷＩＮコンコードを結成した最初のメンバーは、みんな1947年に生まれ、和歌山出身の高校・中学校ないし小学校の同級生だったそうであり、また今のところでも、団体の中堅を担当するメンバーの多数は、1947年に生まれた方々である。確かに、国際連帯・国際理解の拡大を目的とする地域的、社会的団体は、今日の日本のいたるところで見られている。そして、まさにそれらの団体の努力によって、日本の国際協力国際援助事業が不断に促進されている。だが、同齢・同学年によって結成され、国際交流を行う地域的団体は、わたしの管見かぎりに、おそらく、和歌山ＷＩＮコンコードしかいないであろう。

「1947年に生まれた人間には、リベラルが多い」と中谷さんは教えてくれた。確かにそのとおりである。現在の日本の政界、財界とくに学術において、活躍されている人々は、「1947年に生まれた」者がもっとも多いと見られている。周知のように、1947年は現代日本の「原点」とされる戦後改革の最中期であり、新憲法をはじめとする戦後日本民主主義の「定着期」でもあった。５０年にわたる戦後史を顧みると、現代日本社会にある何らかの特徴は、ほとんど1947年から見いだされるように思われる。そのために、わたしは戦後、日本の社会構造とりわけその「特殊な」政治構造の形成過程を考察するうちに、1947年という時点にきわめて興味深かったのである。戦後日本における政－官関係の形成、吉田政治路線の展開、日本財界の再結集、現代労働組合運動の台頭などは、いずれも1947年に起こったことである。それゆえに、「1947年に生まれた」人間は、生まれてから、強い近代化の新風を受けつつ、戦後民主主義の洗礼を経験していたので、国際的視野、自由主義への追求、人権尊重の自覚がしだいに育成されてきた。それはおよそ「1947年に生まれた人間には、リベラルが多い」という理由であろう。

もちろん、現在の世界は、もはや地球社会という時代に入っている。それによって、リベラリズムも大きな変貌を遂げ、従来の「国家」や「民族」の枠組みを大いに超えて、グローバル規模へ広がっている。この意味からみると、今の日本において推進されている「国際化」は、およそこうした地球社会への一つの動きであるといえよう。それだけ、リベラルの精神をかねてより自覚して、日本特に和歌山の国際交流事業に多大な寄与をなされているＷＩＮコンコードの皆様が、今後とも地球社会の達成のため、より大きな役割を果たすことを私は切に望んでおります。

あの忘れられない日

李 欣 芳
（台 湾）

１９９５年１月１７日、午前５時４６分、沢山の人々にとって一生忘れられぬ怖い一瞬であった。突然「ドーン」と来た。地底に引きずり込まれて、地が裂ける。さも、この世の終わりのようだと思われた。そして、そのことから早くも一年以上経ったが、時間の流れは災害者たちの傷痕を治すことはできなかった。

なにしろ、阪神大震災は、人々にあまりにも巨大な衝撃を与えた。このせいぜい２０秒から４０秒ぐらいの揺れによって、５，０００人を超えた犠牲者を出し、美しい町並みを完全に破壊してしまった。まさに、想像にもしなかった悲惨な出来事であった。

その時の私は大阪に住んでいた。ちょうどその日、私は何となく不安で夜眠れなくて、ずっと寝ころんでいた。そして、壁が引き摺っているすごい音が聞こえ、夢かと思って、建物と天井に釣り下がってある電気が激しく揺れていった。本能的に電気の下から逃げたが、揺れの後、ぼうっとしてしまった。それに、心臓がその地震のように、激しく騒いでいる

音がはっきりと聞こえた。その後、何もかもだめになってしまった。電話がかけられないし、電車も止まってしまったため、学校へも行けなかった。そして、友達が来たので、ちょっと落ち着いたが、やはり数回の余震が来て、とても不安であった。

発生してから、連日報道される災害状況を見て、本当に見るに耐えない感じで、つい涙が出てしまった。美しい国際都市、神戸が一瞬にして地獄となり、あちらこちらで燃え上がった火柱が見え、火の海のようであった。最も悲惨なことは、数え切れないがれきの下に生き埋めになって、救出されるのを待っている人々の命は、この冷酷な火で、残酷に奪われてしまった。毎日、毎日増え続けている犠牲者の数を見るたびに、言葉が出ないほど、心が重くなりつつあった。

私の国、台湾でもよく地震が来たが、地震の怖さは、この大惨事によって、初めてつくづく教えられた。地震が来ないと言われている関西地方もこんな大きな地震が来るとは、本当に夢にも思わなかった。無数の木造家屋が倒れただけでなく、コンクリートの建物や高速道路まで壁となって倒壊してしまった。「ハイテク」と言われる日本では、とても信じがたい事実であった。この衝撃は不景気に覆われている日本の経済を一層深刻にするだけではなく、被災者の人々の命や夢までも壊してしまった。家を失って、寒さの中で避難している人々の中で、家族に死なれて苦しんでいる人もいるし、家が崩れても巨額のローンを背負わなければならない人もいる。その中で、最も気の毒なのは震災遺児となった子供たちではないかと私は思う。

この無残な大災害によって、日本の地震対策は完備していると言う話はもはや崩れ、神話となってしまった。しかし、被災した人達の冷静さは印象的であった。それは辛抱強い日本国民の政府に対する無言の反発ではないだろうか。なにしろ、阪神大震災は天災だと言うけれども、人災とも言えるからです。地震発生してから素早い救援対策ができなかったのみならず、海外各国からの支援の申し入れに対してさえ、理由をつけて回答をズルズル引き延ばした。そのため、救援成果が十分に上げられなくて五千人以上の死亡者を出す結果となってしまった。だが、行政側の反応の鈍さと対照的にボランティアの人達の積極的な救援活動は本当に助けになった。日本全国から、更に、世界の数カ国から駆けつけたボランティアたちと自分自身も被災者としての人達が、皆力を合わせて、いろんな形の救援活動を一生懸命に貢献している方々に敬意を払うべきであると思います。

あの忘れられない日から、一年三ヵ月立った現在、ほとんどの被災地は早いスピードで立ち直った。しかし、現在、問題になっている住居期限に迫られている仮設住宅に住んでいる被災者たち、特に一人暮らしの老人たちの住宅問題は、早期解決を立てるべきだ。又、日本政府にとって、防災対策の再検討は何よりも重要な課題となった。社会生産基盤を強め各分野の防災へのコントロールシステム、住宅コミュニティの強化、地域のシェルターなどを再整備しなければならない。

阪神大震災に、われわれと同じ日本に来ている留学生の中でも何人かが犠牲になってしまった。本当に気の毒であった。更に、私たちが住んでいる町、和歌山はとりわけ地震の多発地区なので、普段から突発の地震に対する避難準備と防災知識など心構えることである。この教訓は日本だけでなく、あらゆる地震多発国もしみじみと教示された。私の国は日本と同じで地震国として、地震防災対策をもっと確実に立てて、二度と同じような悲劇は起こらないようにしてほしいと思う。

最後に、謹んで被災した方々に心からお見舞いを申し上げます。

中国の一人っ子政策

仲　虹
（中　国）

今年の２月、拙稿「中国の一人っ子政策と一人っ子教育」が教育学論々集に集録された。つぎはその要約の一部を紹介してみたい。

Ⅰ　「一人っ子政策」の歴史と実態（略）

Ⅱ　「一人っ子教育」の現状と反省（略）

Ⅲ　「一人っ子政策」の難題と展開（要約）

「一人っ子政策」はいまいろいろな課題を抱えているが、どの課題でも中国の伝統的倫理観、家族観、子女観、教育観等計測しがたい複雑な要因と密接に絡んでいて分離不可能なものであり、途方もない難題であると言える。

１．伝統的倫理観念の阻害

小農経済＝家族を生産単位とする経済体制の歴史が長い中国では「多子多福」「不幸有三、無後為大」などの倫理観念の影響が強く、いまでも人々の出産観を大きく左右しているから「一人っ子政策」が成功できるかどうかは、このような伝統的倫理観念をいかに払拭するかにかかっていると言ってもいい。

２．高齢化社会への急進

高齢化社会へ急進中の中国政府にとっては、一番緊急な課題がつぎの二つである。

（１）老人の社会扶養体制の確立

「一人っ子政策」の実施により、近い将来「４人の祖父母－２人の親－１人の子供」というパターンが中国社会の家族の基本型になってくるにちがいない。そこに浮上してくるのは６人の老親の面倒を誰が見るかという問題である。

（２）年金等の社会保障制度の改革

高齢人口の増大と生産年齢人口の減少によって、現行の社会保障制度全般にわたる改革が迫られている。

３．「黒孩子」（カミッ子）の増加

計算外出産の黒孩子が人生の最初から社会差別の対象になってしまうから、この問題を解決しないと黒孩子たちの将来に不利な影響を与えるばかりではなく、「一人っ子政策」と社会全般にも影を落とすことになるだろう。

４．性比の不均衡

胎児性別の判定方法は不幸にも今日の不法な女児間引きに使われた。バランスが崩れた性別の不均衡が社会問題として「一人っ子政策」の推進と中国人口の正常な成長に脅威をもたらすことは否定できないようである。

５．人口素質の低下

現行政策のもとに、尾大な文育群を持っている中国における人口素質の悪循環がすでに深刻な社会問題となっている。中国国内で「天下第一の難題」と呼ばれている「一人っ子政策」の実施に関し、中国政府は「わが国の国情により、ある一定期間中やむなく取らざるを得ない選択だ」と説明したことがあるが、それはいつまで続けられるのか、そしてその実施期間中上記の課題をどんな方法で解決していくのか、国内的にも国際的にも大きく注目されているだろう。

あと1年・・・・・

高 慶
（韓 国）

91年4月9日不安と期待感を胸一杯抱えて、桜が満開の大阪伊丹空港に着いた時のことは、未だに忘れられない。事務的にかたい態度の入国管理人質問に短い日本語で一生懸命に答えて、やっと入国の手続きを終えたことや韓国人と同じ顔なのに聞き取れない言葉で喋る周りの人々。4月だったのに凄く寒い気がした日本での初めての夜・・・

地図一枚を手にして大阪をはじめ京都、奈良、神戸などと歩きまわったことや、身に慣れなかったお弁当屋でのバイトなど、いま振り返って見ると自分がやったことではないような不思議な気さえする。何となく忙しい町である大阪では、訳が分からずに自分も走り回った日々であった。が、ここ、和歌山に来てからやっと一息着いて自分のペースで生活するようになった。

日本に来てから数年間味わうことができなかった人情溢れる出会いやいろいろな PARTYなど貴重な時間を過ごした一年間であった。特に、学生に偏る出会いではなく社会で活動している、いわゆる現場で働いていらっしゃる方々との出会いは学校という目にみえない壁に武装（？）されて保護されている私には現場の生々しい状況が聞かれる機会であって、何よりも大事な時間であった。

自分が望んできた留学であるが、最初の計画より長くなったので、無事に留学生活を終えて現場に戻った時、旨くいけるかどうかという不安感を持っている私にとって、日常生活の話も大事なことであるが、それよりもっと貴重なのが現場の話である。どこの国も同じであるが、特に韓国では消費文化というか大衆文化の変化が目まぐるしく変わりつつあるので、6年間という時間のＧＡＰをどう埋めるのかが今の私にとって大きな課題でもある。

そのなかで学生という立場はある時には多少の無茶をしても大きな目で見られる特権（？）でもあるが時には学生だからこそ遠慮しなければいけない息苦しい立場でもある。素直に自分の感情に忠実にそれを表したいし、伸び伸びと自分の力を生かしたい気持ちがいつよりも強く湧いてくるこのごろである。が、あと1年間は長かった留学生活をちゃんと纏めなければいけない時間でもある。「1年しか残ってない」のではなく「1年も残っている」のであるから、今しかできないことを着実に積み重ねて、社会に役立つ一つの小さな歯車になれるように努力するつもりである。

最後に2年ほど前に日本の友人からもらった文面を思い出しながらつまらない文を締めくくりたい。
『だからこそ、そうなる前に・・・僕の中で精神的な組み替えが行われてしまう前に・・・何かひとつ仕事を残しておきたかった。歳をとることはそれほど怖くなかった。歳をとることは僕の責任ではない。誰だって歳をとる。それは仕方のないことだ。僕が怖かったのは、あるひとつの時期に達成されるべき何かが達成されないままに終わってしまうことだった。それは、仕方のないことではない・・・』

My Country Is Dragging...

Zaire is a continental country in central Africa, with rich natural potentialities. I sometimes meet people in Japan who know the history of the second World War and remember well that one country in the world escaped that war with no debt incurred— That country was Belgium. The explanation was clear: because of the enormous natural resources of Zaire (then, Congo-kinshasa), a Belgian colony, Belgium could support easily its war effort by massively exporting Zairean's gold, cobalt, copper, uranium, diamond and so forth. Why is it that now, Zaire has so many social, political and economic problems (when its underground remains still rich)? We will not try to answer that question as there are too many parameters to weigh; however, we can map the evolution of the political situation since it's independence.

1. In the 1960s: Zaire got its independence. That was a turning point since we'd have to govern ourselves. But the scramble for power soon started between young political leaders; here and there throughout the country wars happened between factions.
(At that time, I was young (less than 4 years old). I was living with my parents in the central region in my birthplace called, *Coqlatville*. During the troubled period, my grandmother prepared a shelter for all her family by digging a hole under her bed in order to protect us from the warring factions.)

2. In 1965: The President Mobutu (president until now) got the control of the government by the means of a coup-d'-etat. That was an other turning point. He suspended all political parties and restored peace in parts of the country and this was enough to get our people to return again to work. It wasn't long before the economy of the country rose to the point where it was at the time of it's accession to independence; and thereafter Mobutu's fame strenghened.

3. In the 1970s: Mobutu started a clear drive to dictatorship, reinforcing his power and imitating Mao's China and other communist structures. And without adapting to the real needs of the country he sought continental political leadership (Perhaps the source of his conflict with the Libyan's Kadhafi?) This was the beginning of his downfall (in terms of reputation and honour). His government was also accused several times of corruption. This situation lasted until 1990, during which nobody inside the country could express freely his feelings for fear of beatings!

4. In the 1990s: As a result of the people's pressure, Mobutu announced in a presidential news conference his agreement for the democratization of the Republic. That was our third turning point which also sounded like Mobutu's surrender and the collapse of the dictate which has however survived under other forms.

大学祭・独立記念館の前で　1986年

Now, we are in the transit period to democratization and the negotiations about the new constitution and the shape of the so-called third Republic are still dragging: we have had our Sovereign National Conference, the Conclave; and the negotiation of the People's House and so forth. The President, feeling betrayed by his companions who are mostly leading the opposition, seems to work actively for the failure of most of the negotiations, and all his principal opponents are experiencing defections in their own parties at every turn.

However, all our intelligentsia believe that our country is a leading force in Africa and that justice, peace and competence for the next president are required to show the country's power. Natural resouces are abundant and we now have enough knowledge to develop the country with the cooperation of other industrialized countries.

Philo B.

私の国は困難を背負ってはいるが・・・

ボニアンガ・フィレモン・ロフロ
（ザイール）

ザイールは、天然資源に富んだアフリカ中部の国である。私は、第２次世界大戦の歴史を熟知し、あるひとつの国が何の経済的負債もなしに戦争から解放された事実があることを良く知っている人に、日本で出逢うことがある。その国とは、ベルギーである。その理由は簡単である。その当時、ベルギーの植民地であったザイールは、膨大な天然資源を保有していたからで、ベルギーは、ザイールの金、コバルト、銅、アルミ、ダイヤモンドなどを大量に採掘することで戦争の費用をまかなった。地下資源は豊富であるというのに、どうして今、ザイールが、社会、政治および経済問題を多く抱え込まなくてはいけないのか。色々な原因が考えられるので、我々はその問題には答えないでおく。しかしながらわが国の独立以来の政治的変化をたどってみようと思う。

１．１９６０年代：　ザイールは独立を成した。我々が自分の手によって国を統治していくという点でそれはとても大きな出来事であった。しかし、急に与えられた自治は、その後すぐに若い政治家たちを分裂へと導き、あらゆるところで対立と内戦が起こった。その当時、まだ４歳にもなっていなかった私は、両親とともに、生まれ故郷の国中央部のコキラテビールという町に住んでいた。その混沌の時代、私の祖母は、ベッドの下に穴を掘って防空壕をつくった。私たちを戦火から守るためである。

２．１９６５年：　クーデターにより、モブト政権が誕生した。これは、我々の歴史で次の過渡期であった。モブト大統領は、すべての政治政党を廃止し人々が仕事に復帰できるのに十分な平和をザイールにもたらした。ザイールの経済が、独立当時の状態までもどるには、それ程時間はかからなかった。これによって、モブトの名声は高まった。

３．１９７０年代：　モブト大統領は、独裁政治への道をはっきりと示しだした。それは、モブトの権力を誇示するものであり、毛沢東の中国や他の共産主義諸国を模倣したものであった。モブトは、ザイールの真の要求を満たそうとはせず、大陸での政治主導権を握ろうとした（この根元にあるのは、リビアのカダフィ大佐とのいざこざであったかもしれない）。これを機に、モブトは（名声と名誉という意味で）敗退していく。モブト政権は汚職などで頻繁に避難された。この状態は、１９９０年まで続き、その間、罰せられることを恐れて、誰も政府のことを批判したりはできなかった。

４．１９９０年代：　人々の強い力によりモブトは国家の民主化を進めることを大統領会議で約束した。これは、３度目の変革であり、事実上モブトの降伏と独裁の終わりとなったが、その後も独裁権力は別の形で生き延びることとなった。

我々は、今、民主化への過渡期にあり、新憲法の制定を論議しているところである。国家最高会議を開き、議会との交渉を進めてはいるが、未だに、第三次共和国はかたちをなし得ていない。現在、野党勢力を支援している元側近たちに、モブト大統領は、裏切られたように感じ、交渉事を失敗に導こうと試みている。そして、モブトに反する者は、あらゆる場面で、自分たちの政党を撤退することを余儀なくされてしまう。

しかしながら、我々の知識階級は、我々の国はアフリカでの求心力となり、この国が力を発揮するには正義を平和と次期大統領への期待を示すことが求められていると信じている。天然資源に富んだこの国は、今、工業発展国の支援のもとに、国を発展させていくに十分な知識を備えている。

翻訳：大谷　昌義

留学生紹介

大学院の部

・Piladang Apimook　タイ／教育

はじめまして。私はタイの東北から来ました。マハサラカム県に住んでいます。大阪外語大学で六ヵ月日本語を勉強しました。これから和歌山大学に入って、化学教育を勉強するつもりです。研究は太陽エネルギーです。どうぞよろしくお願いいたします。

・金　汗根　韓国／経済

韓国のソウルから参りました。韓国ではキムという名前が日本の鈴木のようにありふれた名前ですから覚え易いと思います。韓国では科学技術処（省）で働いておりましたが、専門分野の勉強をするために和歌山大学院へ派遣されました。日本語は沖縄で勉強しましたが、まだ十分ではありません。皆さん教えて下さい。家族は、妻と子供が二人います。妻は平凡な女です。子供二人は女の子で今、木本小学校５年生と２年生です。日本は初めてですから、日本のいろいろな文化や生活方法などを教えて下さい。家族の宗教は佛教です。お寺へ行く時、誘っていただきたいと思います。皆さんといい友人になれるのを楽しみにしています。どうぞ、よろしくお願い致します。

学部生の部

・徐　永鐘　中国／経済

和歌山の人々は親切でやさしいです。和歌山もきれいです。ここで二年間勉強できてとてもうれしいです。どうぞよろしくお願いします。

趣味：旅行

・田　祥平　中国／教育

はじめまして。私は中国の重慶から参りました。重慶は四川の都会の一つです。昨年１０月に日本に来て大阪外語大学で日本語を勉強しました。教育学が好きなので、和大教育学部に入って勉強しています。中国の教育と日本のと比較するつもりです。また留学生と一緒に生活することができて嬉しいと思っております。和歌山に来てまだ一週間ですが、ＷＩＮコンコードの持様にお世話になりました。有り難うございました。今後ともよろしくお願いします。

・Julia Marcela Casas Cortes　メキシコ／教育

I came from Monterrey, Mexico. Monterrey is an industrial city and the third largest state. In Japan I found very friendly and kindly people, but I still feel homesickness. I wish to go to my country on summer vacations.

・賈　金柱　中国／教育

私は中国の内モンゴルの大草原で生まれ、草原が私の故郷です。美しい限りない広い大草原で暮らしている人間は心も広く精神も豊かです。草原の資源に恵まれています。私は草原を愛しています以前一度、草原と離れていたのは遼寧省瀋陽魯迅美術大学で油絵を専門として勉強しており、卒業してからモンゴルテレビ局に美術設計と記者として働いています。この度、草原と離れて日本に留学しました。草原が大変なつかしいです。日本での学習のチャンスを利用して、よく勉強しようと思っています。どうぞ宜しくお願いします。

・Hisham Hashim　マレーシア／経済

マレーシアのホト・クラン（Port Klang）から来ました。私の家族は６人います。私は一番目の息子です。私の誕生日は１９７６年２月２５日です私の生まれた場所はマラッカ(Malacca) です。今はもう20歳です。私はマレー語以外に、英語、アラビア語ともちろん日本語ができます。今は和歌山大学で経済学部一年生です。これから頑張ります。よろしくお願いします。

・Zulfiqar Zainuddin　マレーシア／経済

Hello! My name is Zulfiqar Zainuddin. You can call me Fiqar. I come from Kuala Lumpur, Malaysia. I am 20 years old. At the moment, I am staying at the University of Wakayama

International House. I am studying at the Faculty of Economics, University of Wakayama My hobbies include travelling, playing soccer, badminton and various other sports and listening to music. As I will be in Japan for another 4 years, I am hoping to gain as much experience, see the sights and make as many friends as possible.
Therefore, I hope that you will be able to make my stay in Japan an enjoyable and unforgetable one!

・陣　正原　　台湾／システム工学
ＷＩＮコンコードのみなさん、こんにちは。私は和大のシステム工学部光メカトロニクス学科に在学しています。光メカトロニクスというのは電子機械に光技術を応用することで、大変面白いと思っています。日本へ来てから、一年間を過ごしまして、日本の桜と紅葉と銀杏を見ることが大好きです。いつも、日本人は幸せだなと思っています私の性格は活発ではないが、スポーツの方が好きです。特にソフトボールが大好きです。もし機会があったらみんなと一緒にスポーツをしたいと思っています。４月５日、引っ越したばかりの時、すぐＷＩＮコンコードからお世話になって、ほんとうにありがとうございました。これからも皆さんよろしくお願いいたします。

・朴　敬玉　　韓国／教育
季節は変わって春になっています。昨年夏の終わりごろ日本に来て、もう７ヶ月立っています。大阪外国語大学で６ヶ月間の日本語の教育が終わって、４月から和歌山大学の教育学部で美術史を勉強しています。向こうでは中学校で教えましたが今度はまた学生に戻ってきて楽しい日々を過ごしています。海が好きな私にとって、和歌山はちょうどいいところになるだろうと思っています。
一年間の和歌山での生活を楽しみにしていながら。

・朴　行光　　中国／教育
私は1995年10月和歌山大学教育学部に研究生として留学に来ました。ＣＡＤにより機械設計の研究のために中国遼寧省鞍山市から日本に来ました。遼寧省といえばピンとこないかもしれませんが、大連、瀋陽（旧名は奉天）といったらご存じかもしれません。鞍山市はその間にある都市で、中国一の鉄鋼会社－鞍山鋼鉄公司のある工業都市であります。日本に来て勉強、バイトなどで忙しくて楽しい日々を送っています。日本人の友達もけっこう作りましたが。日本人の友達との会話などの中で、ちょっと中国の習慣と違っているなあと感じたのは、日本人の友達に私生活、例えば家族などについてちょっと聞きにくいことです。失礼する恐れがあるからです。これからももっとお互いの習慣を理解、尊重し、お互いに傷つけずに友情を深めていきたいと思います。また日本に滞在している時間を大事にし、もっと頑張っていきたいと思います。

・Sakai Nathalie Isabelle オーストラリア／経済
Hello to everybody!
My name is Nathalie Sakai and I come from Perth, Western Australia. I have been studying Japanese for about 10 years, and this is my second time in Japan. I have come back this time to hopefully improve my Japanese. At University in Australia I am majoring in International Business and Asian studies (Japanese). As I should be finished in about a year, I decided to come to Japan and do something about my Japanese. I decided on coming here to Wakayama because my husband is from Wakayama, and out of sheer luck there happened to be an exchange program between Wakayama and my University in Australia. So, here I am! My aim during the next ten months is to study hard, enjoy myself and finally go home with a higher level of Japanese. I hope that this gives you a small insight as to the person that I am.　よろしく、おねがいします。

大学祭「留学生の店」

ロビザ・マート・ジョハール

（マレーシア）

いらっしゃい！いらっしゃい！とあの日の声をまだ覚えている。和歌山大学祭の日は随分にぎやかです。食べ物の屋台だけではなく、バザーとコンサートも行いました。留学生のクラブもＷＩＮコンコードと一緒に祭に参加しました。この日のためにたいへん苦労しましたがみんなの協力で計画どおりに屋台を開いて、いい売上げができました。道具、場所、材料ぜんぶ決めなければならないですが、「これが私達の自慢料理です。」とお客さんに伝えたいからみんな一生懸命やりました。中国の餃子、台湾の愛玉氷・粉圓、韓国のキムチ、マレーシアのROTI CANAIぜんぶおいしいものばかりではないですか。たぶんみなさんは聞いたこともない料理かもしれませんがどうぞ今年の和大の大学祭に来て下さい。そして留学生の店を捜しましょう。一緒においしい料理を食べてみよう。

思い出

汪　易

（中　国）

ＷＩＮコンコード創立五周年、おめでとうございます。このご機会をいただき、留学生の世話をつづけてきたメンバーの皆さまに、尊敬と感謝の意を申し上げます。

４年前に、私は大学のため、和歌山市に来ました。当時、ここの留学生は３０人もありませんでしたが、ＷＩＮのおかげで、私たちに山ほどたくさんの思い出を作ってもらいました。

大学に入ったばかりの頃、皆さんのように友達が少なかったのです。このとき、ＷＩＮの留学生歓迎パーティーに参加しました。パーティーは大学の留学生の先輩や同級生らが集まって、市民の皆さんと交流することでした。たくさんの留学生や日本人と知り合うことができ、新しい土地で生活を始める私にとっては、本当に嬉しかったです。

前期試験が終わると、留学生をリラックスさせるために、夏休みのキャンプを計画してくれました。清水町にある海瀬さんの生家で２日間の野山生活を体験するわけです。静かな山の森の中で、透き通った冷たい川で泳ぐことはその夏の最高の思い出になりました。ここで、留学生はみんな同じ屋根の下で宿食することで、友情は一段と深まりました。

秋になると、留学生とＷＩＮが話し合って大学祭に留学生模擬店を出すことにしました。前日の夜、中谷さんの自宅で夜中まで、餃子のなかみを作ったりなどして、準備をしたことは今も覚えています。当日、はじめての留学生の料理の店の話を聞いて、たくさんのお客さんが来てくれました。「料理を通じて交流を深めよう。」会長の村上さんが言った言葉はまさにふさわしいです。

冬、スキー旅行と豊田自動車工場の見学がありました。さすが世界トップの日本企業ですから、留学生達は目をみはって見学しました。そして、二日目に、はじめて、スキーをやりました。暑い国から来た留学生の中には、はじめて雪を見て大喜びしていた人もいました。行き帰りのバスの中でカラオケを歌ったり、後藤さんとお酒を飲んだり、楽しい一泊二日の旅行ができました。

このような活動は今でも続けています。そして、これからもＷＩＮは和歌山地域の国際化に貢献していくと私は信じています。いい思い出をありがとう。

ＷＩＮコンコードに参加して

仁張　礼子
（日　本）

主人が定年を迎える二年前、何かしなければと色々模索していましたところ松島さんのお誘いを受け、ＷＩＮコンコードに入らせて頂きました。

現在、中国からの和大留学生二人のホストファミリーをさせて頂いております。そのためＷＩＮの各種催しに参加する機会もあり、おかげさまで多数のメンバーの方々、及び各国の留学生にもお近付きになることが出来ました。特に彼等の優秀さ、またアルバイトをしながら真面目に勉学に取り組む姿には大変感銘を受けました。

留学生との交流を通じ、新聞、テレビ等で得た知識より更に身近にその国々の生活習慣を学び、アジアの一員としてなおいっそうの親しみを覚え「世界はひとつなのだ」という思いを強く感じております。

昨年参加させて頂いた四季の郷でのバーベキューそして片男波自治会館でのクリスマスパーティはとても楽しく思い出深いものでした。クリスマスパーティは留学生三十五名総勢八十五名の手作りパーティでしたが、各自持ち寄りの御馳走を中心に若者の進行でキャンドルサービス、クリスマスキャロル、プレゼント交換、ゲーム等々、おかげさまで私達も大いに楽しみ、若返らせて頂きました。又、手作りの大きなケーキにもびっくりしました。

この日も極力お金をかけずに手作りで運営していこうというＷＩＮの基本姿勢とそして、私達でも参加出来るということに魅力を感じると共に、これからも微力ながら出来る範囲でお手伝いをさせて頂きたいと思っております。

１９９５年度活動経過

４月　９日	新入生歓迎花見（和歌山城）
４月２２日	映画「ガイアシンフォニー」 鑑賞とパーティー
５月　３日	ピクニック　桃山町果樹園
５月１３日	ＷＩＮコンコード総会・交流会
６月　７日	会社見学　花王石鹸
７月　２日	クルージングとバーベキュー 淡輪ヨットハーバー
７月１５日	プレAPEC '95記念フォーラム参加 「ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ ﾜｰﾙﾄﾞｲﾝｱｼﾞｱ」 マリーナシティー
８／５～６日	サマーキャンプ（清水町）
１０月２８日	ピクニックとカラオケパーティー 四季の郷
１１月１３日	大学祭　模擬店協力
１２月２２日	クリスマスパーティー
１／１～３日	新年会（各ホストファミリー）
１／13～14日	会社見学とスキー旅行 セイコーエプソン㈱（長野県）
年　間	住宅紹介・入居・転居の支援 生活用品の貸与 ホストファミリープログラム 生活情報提供、相談

Seiko- Epson 工場の見学

津村 ビクトル
（メキシコ）

毎年と同じように、WIN CONCORD の冬のスキーを楽しむことができました。今回は、長野県でやりました。今年の冬、ニュースによると、50年ぶりの雪が降っていると言われています。

この見学は1月11日から13日まででした。今回はスキーだけと違って、長野県にある Seiko- Epson の工場の見学をすることが出来ました。これは海瀬さんのおかげでできました。

大雪のため、三日前から、普通に高速道路を走ることができなかったのですが、運が良くて予定通りに出発しました。11日の夜、留学生会館から長野県に向かって出かけました。

長野県に着いたのが朝早くだったのですが、時間通りにホテルに着きました。このホテルは、高級なホテルで、リッチな見学をやっていると感じました。着いたばかりで、ホテルの温泉に入りました。疲れが取れ、それから一日始まる用意をしました。朝食をいただいて、水族館に行きました。ここではカラフルな魚がいて、とても楽しかったです。

昼から、Seiko- Epsonの工場に行って、どうやって時計の部品を作っているのか、またテレビのスクリーンを作っている所を見せていただきました。

最後の日、スキーをしました。私は、今回初めてスキーをしました。始めに板とブーツが「邪魔」だと思っていましたが、慣れてくるとスキーはとても楽しいスポーツだと思いました。
帰りは、疲れていましたが、バスの中でカラオケを歌っていました。今回の見学は、とてもいい思い出になりました。

WINの皆様へ

張　洪俊
（中　国）

「光陰は矢のごとし」ですが、昨年4月に和歌山に来てから、もう一年になりました。この一年間は皆様のご指導、ご支援をいただいて、心から感謝しております。
皆様のおかげで、和歌山での生活はとても楽しいものでした。本当にありがとうございました。私はもうそろそろ国へ帰りますが、皆様のことはどうしても忘れることができません。
皆様のご健康をお祈り申し上げます。是非一度中国の天津市に遊びにいらっしゃって下さい。
さようなら！

留学生とボランティア

李 旭 東
（中 国）

２年前、初めて和歌山の上を踏んだ時に、多くの留学生と同じように、私は戸惑った。回りに見知らぬ人々と、不案内な町で、まるで別の世界だった。

頼りところが、相談する相手さえいない。「これから、この町で勉強し、生活するために、どうしたらいいのか」と考えると、非常に不安だった。そこで和歌山のボランティア組織と「知り合い」いろいろな情報を教えてくれたり、交流パーティーに誘ってくれたり、生活用品を提供してくれたりすることによって、その不安感が、だんだんなくなってしまった。その時、和歌山人の親切さが、私にとって、貴重な慰めだった。

日本に来る前に、ボランティアに対する認識が、浅かったから、非常に親切なボランティア組織の行動に、不思議だと思っていた。「アカの他人に、何故そうするのか？何のためにそうするのか？」と、考えた。

ところで、ボランティアの人々と付き合うにつれて彼らがしていることを理解できるようになった。多くの日本人は、海外へ行ったことがあるので、自らの経験を生かして、日本に来た人達が、日本の生活環境に早くなれて、日本人と違和感なく共に暮らして行くことが、彼らの目的だと思う。こうして、数多くの留学生が、こういうボランティア組織から、精神的、物質的な援助を受けた。

そして、一昨年の阪神大震災の際、ボランティアの大活躍を見て、私はボランティアのことを考え直した。「親切」だけでは、ボランティアの主旨にならない、「奉仕」こそ、その真の精神である。そこで私はこう考えた。「ボランティアから、我々留学生は、何を学んだか、そして、何を学ぶべきか」。留

学生は、学ぶために留学したのだから、学校の知識だけでは、物足りないので、日本の社会から、日本の一般の人々から、いろいろなことを学ぶべきだとつくづく感じた。

確かに、日本という国は、過去と現在の二つ歴史を持っている。それに、経済の躍進によって、国際社会での役割がとても重要になっている。このような歴史上で争議のある国に来た留学生としては、その過去を評価するばかりでは、何もならないのだと、私は思う。もっと前向きに考えなければならない。私は、日本の良い所と言えば、技術ではなく、その民族の精神であると思っている。その精神の中に、ボランティア－奉仕する精神が、我々留学生として学ぶべきではないか、と、私は思う。

留学生とボランティアの人々と、親子や親友や学生と先生というふうに考えてみるとその関係が分かりやすいと思う。今は、留学生の相談相手や、励ましてくれる友や、精神的な支えになる日本のボランティアが、一方的に奉仕することになるかもしれないが、将来、恩返しになるのも当然のことである。

お互いに、学んだり、励んだり、競い合ったりすることは、交流と言われるが、お互いに奉仕することは、交流の本質ではないかと私は思う。そして、奉仕する精神こそ、留学生とボランティアの間の切っても切れない絆であると確信している。

ＷＩＮコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で、地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を充分に発揮しうる状況に至っていると思われます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

ＷＩＮは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク（ＨＡＮ Human Active Network）で結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして、世界各国から勉学の場を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上に「ＨＡＮ」を構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され、地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、ＷＩＮコンコードを設立するものです。

ＷＩＮコンコード事務局
〒640 和歌山市大谷２６４－２１
TEL 0734-52-7474 FAX 0734-52-6050